



百合

Power Alliance Tax Accountant Office
パワーアライアンス税理士事務所

News

編集 発行人

パワーアライアンス税理士事務所
税理士 若杉 治
〒151-0073
東京都渋谷区笹塚3-37-1
第1花井ビル2F
TEL 03 (5365) 4744(代)
FAX 03 (5365) 4745
E-mail info@wakasugi.zei-mu.net

◆ 8月の税務と労務

8月

(英月) AUGUST

8日・山の日 9日・振替休日

国 税／7月分源泉所得税の納付 8月10日

国 税／6月決算法人の確定申告(法人税・消費税等)

8月31日

国 税／12月決算法人の中間申告 8月31日

国 税／9月、12月、3月決算法人の消費税等の中間
申告(年3回の場合) 8月31日

国 税／個人事業者の消費税等の中間申告 8月31日

地方税／個人事業税第1期分の納付

都道府県の条例で定める日

地方税／個人住民税第2期分の納付

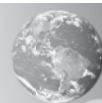
市町村の条例で定める日

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	.	.	.	.

電子納税証明書の印刷利用が可能に e-Taxで取得した電子納税証明書を紙に印刷したものは、これまで納税証明書として利用できませんでしたが、7月から電子納税証明書をPDFデータで受け取ることが可能となり、印刷したものを利用できるようになりました。これに伴い、証明書は偽造防止技術を施した新デザインに変更されています。



エコチル調査



エコチル調査とは

環境省では、2011年より「子どもの健康と環境に関する全国調査」を実施しています。この調査のことを「エコロジー」と「チルドレン」を組み合わせ「エコチル調査」と呼びます。

エコチル調査は、赤ちゃんがお母さんのおなかの中にいるときから13歳になるまで定期的に健康状態を確認することで、環境要因が子どもの成長・発達に与える影響を明らかにし、子どもたちが健やかに成長でき、安心して子育てができる環境を実現するために実施されています。

近年、人々を取り巻く環境は大きく変化し、環境汚染が人々の健康に悪影響を及ぼしている可能性が懸念されています。特に子どもたちの間では、ぜんそくやアトピー性皮膚炎など、生活環境の中にある物質が原因とされる疫病が増加し、その多くは環境の中の物質や運動・食事などの生活習慣、遺伝的な性質などが関係していると言われています。そこで、環境要因が子どもたちの健全な成長・発達に与える影響を明らかにすることは重要であることから、エコチル調査が実施されることになりました。

調査の方法・種類

エコチル調査は、環境省

が企画・立案を、国立環境研究所が取りまとめを、国立成育医療センターが医療面のサポートを行い、調査が行われている地域に設置されたユニットセンターと共同で実施されています。

調査には、参加者全員を対象とする「全体調査」と、一部の人を対象にして行う「詳細調査」、ユニットセンターが独自の計画・予算で行う「追加調査」があります。詳細調査では、参加者の家庭を訪問して生活環境中の化学物質やハウスダストを調査したり、小児科医が直接診察をしたりします。追加調査については、ユニットセンター独自のものですが、事前に環境省の承認を受けて実施されています。

全体調査

環境リスクが健康に与える影響については、従来から動物実験などによって進められてきました。ただ、動物と人間とでは形態学的・生理学的に大きな違いがあり、動物実験の結果だけでは不十分です。そこでエコチル調査は、実際に人間の集団を観察する疫学調査によって行われています。

全国の15地域から10万組の子どもとその両親に参加登録をもらい、質問票による調査や、血液・尿・母乳などの生体試料を採取して化学物質などの測定を行います。それらのデータ

を解析することで、子どもの成長・発達に影響を与える環境要因を解明することを目指しています。

調査は、2011年から2027年までを予定しており、参加者を募集する3年間のリクルート期間と13年間の追跡期間が設定されています。また、2027年以降も5年間は収集したデータの解析を行うこととしています。

調査結果

調査によって収集されたデータは解析が行われ、環境省のホームページなどを通じて開示されています。また様々な学術雑誌にも、各ユニットセンターに所属する研究者によって、論文が投稿されています。

環境省のホームページには、2014年11月末時点の回答に基づくデータクリーニング前の暫定的な結果として、子どもたちの健康状態や育児環境、子育て家庭の生活実態について掲載されています。例えばアレルギーと食品の食べ始めについての調査では、コメは9カ月になるまでに99%の母親が子どもに食べさせ始めていますが、牛乳・乳製品では54%、鶏卵を含む食品では46%と、アレルギーの原因とされる食品については食べ始めを遅らせる傾向にあることがわかりました。

生活の中にある色

私たちの身の回りには、様々な色が使われています。そして使われている色によって、人はいろいろなイメージを持ちます。

例えば激辛商品のパッケージが赤や黒でデザインされていると、その商品はいかにも辛そうな印象を受けます。逆にイチゴの香りがする商品の色が紫色だった場合、多くの人が違和感を覚えます。このように、私たちは生活の様々な場面で、意識する、しないに関わらず色の影響を受けています。

色を認識する

人は、目に入るすべての物の色を見分けていますが、実は物自体には色はついていません。物に当たって反射した光が目に入ると、電気信号に変換されて脳に送られ、脳がその電気信号を認識することで物の色が見えることになります。

色の正体が光であることを最初に発見したのは、ニュートンです。その後、マックスウェルの電磁波論とアインシュタインの光量子仮説によって、色は光で光は電磁波であることが立証されました。電磁波のうち赤外線と紫外線の間にある約380nm～780nmが「可視光線」と呼ばれ、人間が色を認識できる領域です。なお、色を認識できる領域は動物によって違います。

色には、混ぜることで作ることができる色（混色）と混ぜても作れない色（三



原色)があります。混色には、混ぜると明るくなる加法混色と、逆に暗くなる減法混色があり、加法混色の三原色は「赤・緑・青」で、減法混色の三原色は「シアン（青緑）・マゼンタ（赤紫）・イエロー」です。

色彩心理学

色が人に与える影響について研究する分野を、色彩心理学といいます。

色の研究は、紀元前4世紀ごろに始まったと言われています。19世紀には精神物理学や感覚生理学が成立し、人間の感覚の研究が始まりました。20世紀には、色が経済活動や生活に与える影響、色の活用方法など、より実践に近い研究がされるようになりました。「色彩心理」というと色の好みによる性格診断を思い浮かべる方も多いと思いますが、これはアメリカの色彩学者であるビレンがこの頃に発表しています。

色のイメージは、①人類が昔からの体験で得た色の情報、②その情報を基にして地域や文化で記号化されたものの、③個人の色の体験

の3つの要素が関わってきます。そのため、例えば青でも「知的・誠実」と「冷たい・孤独」というように、全く異なるイメージを持たれる場合があります。1つの色に対して異なるイメージを持たれることを理解することが、色を活用するポイントです。

色の効果

身の回りには、色の効果を利用したものが多くあります。

例えば、青色は人の精神を落ち着かせる働きがあり、犯罪防止や自殺を防ぐ効果があると言われています。2005年に奈良県警が、市内の一部の街灯を青色の光に変えたところ、犯罪率が減少したという結果が得られ、その後全国の自治体で青い光の防犯灯が広まりました。

また京浜急行では、ホーム端のライトを青に変えたところ、自殺件数が減りました。さらに青色のような寒色系の色は、時間が早く流れているように感じさせる効果があります。このことを利用して、工場のラインなど長時間の単純作業を行う場所では、寒色系の内装になっているところが多いようです。

一方、赤色のような暖色系の色には、人を興奮させる作用があります。最も印象が強く目立つ色なので、人気商品のパッケージに多く使われています。胃腸の働きを活発にさせ料理を美味しく感じさせる効果もあるようです。

献血

病気の治療や手術などに、たくさんの輸血が必要なことがあります。そのために健康な人が自らの血を無償で提供するボランティアが、献血です。輸血に使用する血液は、人工的に造ることができません。また献血によって集められた血液を、長期保存することもできません。そのため、1日当たり約1万3,000人の協力が必要なのですが、少子高齢化の影響で、献血に協力できる若い世代が減少し、輸血を必要とする高齢者が増加していることが、喫緊の課題です。

献血は、受付後に健康状態についての質問の回答、問診・血圧・体温測定を行い、ヘモグロビン濃度測定と血液型事前検査を行ってから、採血を行うという流れになっています。献血には「全血献血」と「成分献血」があります。

全血献血は血液中のすべての成分を献血

することで、400ml献血と200ml献血があります。成分献血は血小板や血漿といった特定の成分だけを採血し、赤血球は再び体内に戻す方法です。全血献血は10～15分程度、成分献血は40～90分程度かかります。献血後は十分な水分補給と休憩が必要です。当日は、エレベーターや階段の使用には特に注意をし、激しいスポーツは避けましょう。献血後に失神や転倒するケースもありますので、身体の調子がおかしいと感じたら、すぐにしゃがむか横になり、それでも回復しない場合は助けを求めましょう。

献血は、当日の体調が悪い人や服薬中の人、発熱がある人はできません。また、歯石除去や出血を伴う歯科治療を行った人は、治療後3日間は献血を行うことができません。一定期間内に予防接種を受けた人も、献血をすることができません。予防接種の種類によって献血ができない期間は異なりますので、詳しくは日本赤十字社のホームページでご確認ください。

オンラインマラソン

コロナ禍で、様々なイベントやスポーツ大会が中止を余儀なくされる中、オンラインマラソンが注目されています。

オンラインマラソンは、参加者がGPS計測できるスマートフォンのアプリやランニングウォッチを使って走行距離とタイムを計り、データを大会主催者に送って順位を決める仕組みです。昨年3月の「名古屋ウィメンズマラソン」が、コロナの影響でエリート選手のみで行われることになり、参加中止となった一般ランナーを救済する目的で実施されたオンライン形式が、他のマラソン大会でも取り入れられるようになりました。

オンラインマラソンでも運営方法は様々で、走行距離は指定されるものの、どこを走るかは参加者が決められるものが多いですが、中には走る場所が指定されているものもあるようです。

スポーツ大会の新しい在り方として定着するか、注目されます。

ゼブラ企業

自社の成長よりも、より良い社会の形成に寄与することを重視し、持続可能な範囲での成長を追求する企業を、ゼブラ企業といいます。「企業の利益」と「社会貢献」という二つの相反する目的を達成させようとすることから、白黒模様のシマウマ（ゼブラ）にたとえて、ゼブラ企業と呼ぶようです。

創業一〇年以内で評価額が一〇億ドル以上の非上場会社をユニコーン企業といいます。ユニコーン企業は事業拡大のために資金調達を行い、市場での競争に勝ち抜くことや株主の利益が優先されます。そのため、社会的な役割や倫理面が無視されるケースもあります。

そのようなユニコーン企業が増えたことから、それに対峙する企業として、ゼブラ企業に注目が集まっています。